

ちはやふる

～東大津高校図書館通信～

令和4年度 第6号 10月発行

中間考査が終わり、今月末には高体連・高文連があります。大会等に出場するみなさん、がんばってください。まだ暑い日もありますが、風が気持ちいいと感じる季節になりました。読書にも良い季節とされています。ちょっと余裕のあるときは、本を開いてみましょう。

10月27日～11月9日 第76回 読書週間

もうすぐ秋の読書週間です 少し意識して、読書の時間を作ってみましょう

今年の標語 「この一冊に、ありがとう」

〈作者のことば〉

読書で心が震える体験は、何物にも代え難い奇跡のようなものだと思います。そして、自分の未来にはそんな奇跡がまだまだたくさん待っているという妙な確信もあります。本に関わっているすべての人に感謝を伝えたいです。

(読書推進運動協議会 HP より)



★図書委員会では、10/14に県立図書館研修に行きました★
県内の図書館の状況を聞いたり、書庫のたくさんの本を見学したり、実りある時間でした。
とても近くにある県立図書館、利用しないともったいない!!!
みなさんも帰りに訪れてみてください。

令和3年度

しがはいすくーるおすすめ本50選

ポスターが届きました

県内高校生の本紹介を、応募した高校の生徒が互いに審査して50作品選出したものです。本校からも作品応募と50選審査をしました。Teamsでデータ送信もしますので、読書の参考にしてください。

★気になる本があれば、図書館へ借りに来てください★

開館時間変更のお知らせ

10月19日(水)は昼休みのみ、開館です。

教室掲示
します



◆マンガ展示中◆

このページは、本紹介です

『空想科学読本 ①～③』

特撮番組やアニメの世界で普通に起きていることを、科学的に考えてきた四半世紀の研究成果をまとめたシリーズ。

『100年後にはみんな死んでるから気にしないことにした』

小さなことが気になって傷つく。生きづらいし、コミュニケーションがうまくはかれない。それでもいいんだ、それが自分なんだ、とHSPらしさを前向きにとらえていくイラストエッセイ。

『素敵な空が見えるよ、明日もきっと』

あたたかい気持ちになれる森、ひとりじゃないと思える森…。どこでも好きな森から訪ねてみてください。心を癒す葉っぱの上の78の物語とそれを表現した葉っぱ切り絵を収録。

『僕の心臓は右にある』

先天的に内臓逆位で、心臓が右にある芸人、チャンス大城。いじめられっ子だった尼崎時代、同じく右に心臓がある女の子との出会い、東京での地下芸人時代など、人々の想像を超えるその半生を語る。

『小説 すずめの戸締まり』

九州の静かな港町で叔母と暮らす17歳の少女、鈴芽は、ある日、「扉を探してるんだ」という美しい青年と出会い…。過去と現在と未来を繋ぐ“戸締まり”の物語。

『中高生のスポーツハローワーク』

スポーツの世界で仕事をしている人達のインタビューと70以上の職種を紹介する。

『母の国、父の国』

少女は、この国で目立った。そのために、のけものにされたり、けなされたりすることもあった。絶望の果てに訪れたその国で、少女を待っていたものとは…。人が生きていくことの悲しさと力強さを描く。

『新!店長がバカすぎて』

山本猛元店長が、3年ぶりに吉祥寺本店に店長として復帰した。張り切る店長だが、相変わらず、人を苛立たせる天才だ。しかし京子は、心の中で「お帰りなさい」とつぶやき…。

『ハヤブサ消防団』

亡き父の故郷である「ハヤブサ地区」に移り住んだミステリ作家の三馬太郎。地元の人々の誘いで消防団入りした太郎を、連続放火事件が待ち受けていた。のどかな集落に隠された真実とは…。

『腹を割ったら血が出るだけさ』

本心を閉じ込めながら毎日を過ごす茜寧の前に現れたのは、小説に登場する<あい>にそっくりな人物だった。 “愛されたい”に囚われた女子高生、他者の失敗を探し求める少年…。それぞれの踏み出す一歩が響き合う青春群像劇。

『その本は』

本の好きな王様が、2人の男を城に呼び、「世界中をまわって「めずらしい本」の話を聞いてきてくれ」と言った。旅に出た2人の男は…。又吉直樹とヨシタケシンスケによる、笑えて泣けて胸を打たれる、本にまつわる物語。